

市民の皆様 各位

福島の子どもの笑顔と元気応援プログラム支援金ご寄付のお願い

福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会

3・11の東日本大震災は我々の社会に大きな不幸をもたらしました。しかし、その悲惨な状況の中でも多くの人が被災地で助け合う姿が見られ、そのことが悲惨な被災の中でなんとか我々の社会の「希望の灯」となっています。そうした「助け合う社会」の実現に向けて多くの人が連携をすすめているなかで、福島第一原発事故の被害から子どもたちの支援活動を作り出そうとして結成されたのが、「福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会」です。

この実行委員会では2011年7月25日から8月28日まで「ふくしまキッズ夏季林間学校」を実施いたしました。詳細についてはHPに掲載しておりますので、ぜひご覧いただきたいと存じます。福島原発事故の影響で、福島の子どもたちは外での活動は禁止され、室内にすることが強制されていますが、「ふくしまキッズ夏季林間学校」ではこの夏に518人が参加しました。この「ふくしまキッズ夏季林間学校」では、子どもたちの学びと育ちを支援する教育事業を実施し、多様な体験や人とのコミュニケーションを作り出しましたが、それはきっと子どもの人生の宝になるに違いありません。

実行委員会では、この活動の成果を基に、今年の冬、来年の春に子どもたちを守るプログラムを実施いたします。ご賛同いただける皆様に支援金をご寄付いただき、「ふくしまキッズ冬プログラム」に出来るだけ多くの福島の子どもたちが参加できるようにしていただければと、ご協力をお願いする次第です。

この「ふくしまキッズ冬プログラム」の概要計画については下にまとめさせていただきますが、活動の様子はネットで見ていただけるようにして、終了段階では活動報告をはじめ、会計報告などを行う会をネットで配信したいと思っております。どうか全国の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

実行委員長 進士 徹 (NPO法人 あぶくまエヌエスネット 理事長)

活動名 福島の子どもの笑顔と元気応援プログラム 「ふくしまキッズ冬プログラム」

主催 福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会

共催 子どもを守ろうプロジェクト協議会 (SOCC) ※北海道冬プログラム実施について

委員長：進士徹 (NPO あぶくまエヌエスネット理事長) 副委員長：吉田博彦 (NPO 教育支援協会代表理事)

実行委員：宮本英樹 (NPO ねおす専務理事) 安江こずゑ (NPO 教育支援協会北海道代表理事) 青野信久 (こどももの絆プロジェクト) 市川 靖 (NPO 教育支援協会)

監査委員：金野栄太郎 (公認会計士) 立川直樹 (あずさ監査法人)

福島の子どもを守ろうプログラム支援委員会

支援委員：玄侑宗久 (作家・震災復興構想会議委員) 白石康次郎 (海洋冒険家) ジョン、ギャスライト (ツリークライミングジャパン) 田口ランディ (作家) 戸塚 隆 (ジャーナリスト) 寺脇研 (京都造形芸術大学教授) 湯川れい子 (音楽評論家・作詞家) 吉田研作 (上智大学教授) 遠藤和章 (北海道公民館協会事務局長) 藤田 保 (立教大学教授) 中島岳志 (北海道大学准教授)

協力 NPO あぶくまエヌエスネット・NPO 教育支援協会・NPO ねおす NPO 教育支援協会北海道・NPO スタニティ NPO 放課後アフタースクール・NPO 夢職人・北海道旅客鉄道株式会社・北海道・北海道教育委員会 七飯町・北海道公民館協会・北海道教育大学・横浜市・横浜子ども支援協議会・NPO 楠木学園 愛媛県・新居浜市・今治市・大洲市・西予市・日本財団 CANPAN センター

特別支援 SOCC 子どもを守ろうプロジェクト協議会・大沼グリーンツーリズム推進協議会

支援金の募集

本プログラムを実施するために、以下のHPに募金口座を開設し広く支援金を募集する。

HP アドレス <https://fukushima-kids.org>

口座名「福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会 実行委員長 進士 徹」

東邦銀行 棚倉支店 店番号305 口座番号574540

■ 支援金 (目標額) 36,000,000 円 募集人数 600 人 (冬 300 人、春 300 人)

今後の予定(「ふくしまキッズ冬プログラム」分)

- 募集開始：10/23～(福島現地保護者報告会で発表) 募集締め切り：10/31(抽選により決定)
 - 実施本部設置：12/24 実施本部解散：1/8 決算委員会：4/15 支援企業への報告 活動報告会：5/12
- 活動の概要は裏面、もしくは福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会ホームページをご覧ください。

HP アドレス <https://fukushima-kids.org>

「ふくしまキッズ冬プログラム」募集要項概要

1. 募集対象：

福島県内に住居をもち、この事業計画に賛同する家庭の小学1年生～中学3年生の子どもたち。ただし、冬のプログラムは、受け入れ地域によって以下のように学年などに制限がありますので、ご了承ください。

- ◆ 北海道：小学3年生～中学3年生の子どもたち（幼児、障害のある児童・生徒は不可）
- ◆ 横 浜：小学1年生～中学3年生の子どもたち（兄弟での参加の場合は幼児も可、また、障害のある児童・生徒の参加も可、ただし両方とも保護者同伴での参加とする）
- ◆ 愛 媛：小学1年生～中学3年生の子どもたち（幼児、障害のある児童・生徒は不可）

2. 冬の募集人数：

北海道プログラム：100人 ※受入れは、子どもを守ろうプロジェクト協議会（SOCC）

横浜プログラム：170人 愛媛プログラム：30人

3. 引き受け期間：

- ◆ 北海道：12/24～12/30 全日程参加が基本（送迎場所は郡山駅・福島駅）

- ◆ 横 浜：12/25～1/8

Aコース：12/25～1/8(12/25に福島から横浜に引率、12/30～1/3は家族へ引き渡し、その後1/4に横浜へ集合し、1/8に福島へ引率帰還)

B-1コース：12/25～12/30(12/25に福島から横浜に引率、12/30に福島へ引率帰還)

B-2コース：12/25～12/30(12/25に福島から横浜に引率、12/30に横浜で家族へ引き渡し)

Cコース：1/4～1/8(1/4に福島から横浜に引率し、1/8に福島へ引率帰還)

- ◆ 愛 媛：12/25～1/6 全日程参加が基本（送迎場所は福島空港）

- 移動手段：北海道・JR（新幹線+在来線）、横浜・バス、愛媛・航空機

- 費用：参加費3万円（交通費含む）のみ、その他生活費・体験活動及び学習指導費すべて無料

（参加者の乗車駅や子どもの年齢で交通費は異なるが、すべて参加費として一律とする、また保護者の滞在費用については1日4千円としてすべて自己負担とし、滞在期間との関係で相談に応じる）

- 申し込み先：申し込みはすべて以下に示したHPに掲載したフォームもしくはQRコードから行う

HPアドレス：<http://fukushima-kids.org>

- 事務局担当：SOCC 子どもを守ろうプロジェクト協議会

札幌市中央区北6条西25丁目3-35-210（NPO教育支援協会北海道 内）

運営体制

- 運営事務局を北海道・札幌に設置しすべての運営を統括し、プログラムを実施する3地区に現地運営本部において活動を行う。
- 冬プログラムは主にお正月期間(12/30～1/3)を挟むため、その期間は家族で過ごすことを基本とする。そのため、2地区(横浜・愛媛)は宿泊施設を実行委員会が紹介し、保護者が選択して申し込めるようにする。
- 各地区の担当指導者及び運営体制については現地各自治体への協力要請をしている。
- 指導は各地区のNPOが担当し、補助者として各地区の学生ボランティアが参加する。
- 12/24・12/25に指定された集合場所から各地区担当者が引率して出発し、子どもたちを現地に迎え入れる。
- 現地集合後、チーム作りを行い、スタッフがリーダーとなり、各地区のプログラムを運営する。
- 各地プログラム終了後、各地区担当者が引率して福島の解散場所にもどる。
- 詳細については10月22日に発表する募集要綱(HIPに掲載)に記載する。
- 春プログラムについては1月に発表する。

会計監査

福島の問題は今年だけでは解決しないので、長期の取り組みが必要となる。そのため、支援金の使用については「福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会規約及び会計規則」を作成し、支援金の使用については規則に沿って運営し、監査委員の監査報告などを活動報告会で実施する。